

「日本文化産業戦略」についての基本的考え方

**日本人自身の「日本の魅力」の再認識・再評価が重要
文化産業は我が国の経済的な利益や、外交上の利益に直結
文化産業の背景にある我が国の価値観を世界に発信**

現状認識

- ★世界各国が「ソフトパワー」の獲得に向けて戦略的な取組を展開。
- ★日本の「ポップカルチャー」には高い評価。一方、「感性」を戦略的にビジネス展開しにくい風土が我が国に存在。
- ★日本は伝統とテクノロジーを有する「文化資源大国」であり、資源の発掘から活用まで戦略的な対応が必要。
- ★デジタル化が生む「新しい表現手段」と「誰もが生産者」という状況への対応が鍵。

政策の基本的方向

「日本の魅力」の再認識・再評価

我々自身が日本人の「感性」や伝統に
支えられた文化を再認識し、評価

「日本の魅力」の世界への発信

ポップカルチャーに加え、その背景に
ある「日本の魅力」を強力に発信

「文化産業」を支える基盤の強化

多くの優れたクリエイターを生み
出す「土壌」の整備を促進

☀️「日本の魅力」の海外への発信による市場の拡大

「日本独自の評価」の設定・発信

・「日本文化の普及啓蒙につくした外国人」、「海外の人々が憧れる日本の表現者」に対する
総理表彰・顕彰の制定

我が国をクリエイションの拠点とするとともに、魅力を発信

・「東京発日本ファッションウィーク」「メディア芸術祭」、「ジャパン国際コンテンツフェスティバル」等の発信強化

海外への発信基盤の整備

・「ジャパン・クリエイティブ・センター」(仮称)の設立、成田空港等の国際玄関の発信拠点化

海外展開を視野に置いた文化産業の競争力強化

日本のコンテンツの強みを世界的に発揮

「感性」をビジネスに活かす仕組みの構築

文化産業の基盤の整備

文化産業の担い手やそれを支える人材など基盤の整備

法制度・契約の改革

等

